大会を終えてお礼のあいさつ
長野県美術教育研究会会長
村松　哲史

3 年ぶりとなる参集型の全国造形教育研究大会長野大会を終えて、いまだに開催の奇跡を感じるところです。令和２年に始まったコロナ禍の中、大野正人委員長をはじめ全国造形教育連盟の研究の火を灯し続ける熱を感じ、いただいたこの機会を長野の地で実現させようと取り組んでまいりました。今回、全国各地から多くのご参加をいただき、顔を合わせて時間を共にし、今後の造形教育について語り合うことができたことに感慨の念が絶えません。

長野県美術教育研究会では「私っていいね！～つくり出す形・色、ひびき合う感性、今を生きる私たち」を全県研究テーマとし、「ＩＭＡ！∞ ふれて はじまる 感動物語」を大会スローガンとしました。

今を感動で生きている子どもたちのかけがえのない学びを保障することは、私たち大人の使命であります。目の前で、自ら考え、行為を生み出している時間は、無二の自分をつくり、未来へ踏み出している子どもの学びの時間であり、全ての行為の足跡が学習指導要領の言葉となるといっても過言ではないでしょう。「令和の日本型学校教育」に向けて、造形美術教育が大切にして守り続けてきた子どもの学びを保障することの意義を改めて見直し、新たな一歩を踏み出す機会の一助となれば幸甚に存じます。

結びに、ご後援をいただいた文化庁、ご指導をいただきました小林恭代教科調査官、平田朝一教科調査官、授業研究会、パネルディスカッションでご示唆をいただいた先生方、授業公開にあたっては、児童生徒の貴重な時間また会場を快く提供していただいた校長先生はじめ職員の皆様、開催方法について的確なご助言をいただきました長野市教育委員会、校長会の皆様、ハイブリット開催に伴うリモート参加を可能にしていただいた関係業者様、片付けまでお手伝いをいただいた賛助会の皆様､各企画そして、授業者、助言者、授業支援の関係業者の方、開催運営に携わっていただいた全ての皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。